

2 教科指導

「国語科」

1 研究主題

言葉による見方や考え方を働かせ、互いに学び合いながら、自分の思いや考えを深める子どもの育成

2 本年度の重点

- (1) 言葉の解釈や表現内容について、共に考えを深めることができるように単元構成や授業展開を工夫する。
- (2) 言葉についての自分の学びを自覚し、次の学びへつなげることができるように、評価の場面や方法を工夫する。
- (3) 主体的な課題解決に向けて、目的に応じて図書館機能やICTを活用する場면을計画的に位置付ける。

「社会科」

1 研究主題

学びを生かして社会的な見方・考え方を働かせ、社会生活に生かそうとする子どもの育成

2 本年度の重点

- (1) 自らの疑問や予想に基づいた探求活動ができるように、単元構成や授業展開を工夫する。
- (2) 社会的事象の意味をより深く理解できるように、調べた事実や既習の知識を関連付けて考える場面を取り入れる。
- (3) 学習した内容を生かしながら、多面的・多角的に考察する活動を取り入れる。

「算数科」

1 研究主題

数学的な見方・考え方を働かせ、問題解決に向けて学び合う子どもの育成

2 本年度の重点

- (1) 見通しをもち、問題解決に主体的に取り組む事ができるように導入場면을工夫する。
- (2) 「聴いて・比べて・つなげる」学び合いを通して思考や表現の拡張や深化を図る。
- (3) 思考の深まりの実感につながるような振り返りを工夫する。

「理科」

1 研究主題

科学的に考え、主体的に問題解決に向けて学び合う子どもの育成

2 本年度の重点

- (1) 自然の事物・現象についての知識や、観察・実験などに関する技能を身に付けさせる。
- (2) 見通しをもたせることで目的意識をもった実験・観察ができるようにする。
- (3) 観察や実験の結果をもとに、科学的に追究し考察する場を設定する。

「生活科」

1 研究主題

活動や体験を通して身近な生活に関わる見方・考え方を働かせ、互いの気づきを交流して学び合う子どもの育成

2 本年度の重点

- (1) 「試す」「見通す」「工夫する」などの創造的に考える学習活動を保証する授業展開を工夫する。
- (2) 児童の気づきに共感し、問い返したり、価値づけたりするなどの支援を工夫する。
- (3) 自分の気づきを振り返ったり、互いの気づきを交流したりする活動の充実を図る。

「音楽科」

1 研究主題

音楽的な見方・考え方を働かせて学び合い、音や音楽と豊かに関わる子どもの育成

2 本年度の重点

- (1) 知覚したことと感受したことを関連付けて捉えることができる授業展開を工夫する。
- (2) 言語活動と音楽活動を適切に行き来させる手立てを工夫する。
- (3) 多様な音楽活動を体験することにより、それぞれの音楽文化のよさや楽しさ、価値などの理解を深める指導の充実を図る。

「図画工作科」

1 研究主題

表現や鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせることができる子どもの育成

2 本年度の重点

- (1) 創造活動への見通しをもたせるために、学習の中心となる考えを引き出しながら、学習課題やめあてを設定する。
- (2) 主体的に表現を試す、考えを交流する、多様な表現に触れるなど対象等を造形的視点で捉える時間を確保したり、場を工夫したりする。
- (3) 題材など内容や時間のまとまりを見通して評価場面を設定し、児童の学習状況を把握する方法を工夫する。

「体育科」

1 研究主題

課題解決のために習得した知識や技能を活用し、主体的に取り組もうとする子どもの育成

2 本年度の重点

- (1) 学習する意義や目的を明らかにし、学習課題を提示することで、児童が学習の流れを見通すことができるようにする。
- (2) 自己の変容を実感できるよう、スモールステップで課題を設定する。
- (3) ICT機器を活用することで、互いの運動を観察して助言したり、チームで作戦を相談したりすることができるようにする。

「家庭科」

1 研究主題

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、よりよい生活に向けて学び合う子どもの育成

2 本年度の重点

- (1) 生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら、考え、表現できる授業展開を工夫する。
- (2) 生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる授業展開を工夫する。
- (3) 児童同士で協働したり、意見を共有して互いの考えを深めたりする場を設定する。

「外国語活動・外国語科」

1 研究主題

相手意識や目的意識をもち、伝えたい内容を考えながら主体的に学び合う子どもの育成

2 本年度の重点

- (1) コミュニケーションで活用できる外国語の基礎的な知識・技能を段階的に身に付けさせる指導を工夫する。
- (2) 外国語を用いる目的や場面、状況に応じた授業展開を工夫し、伝えたい内容や必要な表現を考えて言語活動の充実を図る。
- (3) ティーム・ティーチングやALTを活用し、習得した知識・技能を実際のコミュニケーションに生かすよさを実感する機会を設定する。